

大津市堅田の飲食店における受動喫煙に関する調査研究

木下 なつ樹 (競技スポーツ学科 トレーニング・健康コース)

指導教員 高橋 正行

キーワード：大津市，受動喫煙，PM2.5

1. 1. 諸言

「百害あって一利なし」という言葉があるように、タバコには 4000 種類もの有害物質が含まれており、近年は健康に害を与える存在であり、それに加えて値上がりされたために禁煙する人が増加している。また、主流煙に比べて副流煙には高い濃度で有害物質が含まれているため、喫煙者よりもその周りにいる非喫煙者の方が健康面へのリスクが高くなってしまふ。平成 15 年に厚生労働省が健康増進法を制定・実施され、受動喫煙に関する条約及び規約が増えたことにより、近年急速に飲食店などの施設における受動喫煙対策が強化されている。そこで今回は本大学の学生が多数下宿している大津市堅田に焦点を絞り、飲食店に加えて大学生の出入りが多いと予想される施設の受動喫煙防止対策がどのようになっているのかに着目し、調査した。

2. 研究方法

大津市堅田に所在する飲食店及びカラオケ店など大学生が頻繁に利用する様々なジャンルの 40 店舗を対象とし、店舗の責任者に調査内容、目的を記した書類を提出し、許可を得たうえで研究調査を行った。内訳としては完全喫煙 22 店舗、完全禁煙 12 店舗、分煙（フロア、喫煙ルームの設置などを含む）6 店舗であった。調査には測定には微小粉塵計（SIDEPAKAM,PM2.5 計測器）を使用した。

3. 結果

喫煙状況としては、半数を超える店舗が完全喫煙であるのに対し、完全禁煙の店舗は全体の 3 分の 1 以下であった。各店舗での調査は 40 店舗で行い、

それぞれの喫煙状況によって異なった数値となった（表）。

形態(店舗数)	平均値($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	空気のレベル
喫煙可能(22)	549.4	緊急事態
分煙/喫煙席(4)	365.0	緊急事態
分煙/禁煙席(4)	252.5	緊急事態
分煙/喫煙ルーム(2)	366.4	緊急事態
完全禁煙(12)	12.5	良好

表 喫煙状況別の店舗数、PM2.5 による測定値及び危険度レベル

4. まとめ

完全喫煙・完全禁煙における調査では先行研究同様の結果となった。しかし、今回の研究において分煙に関しては座席や喫煙ルームの設置といった方式に関係なく、分煙の有効性が見られなかった。これらのことを考えると、受動喫煙防止のためには完全喫煙が必要である。滋賀県も完全禁煙の飲食店を特別登録し更に増やしていくなど、新しい試みはされているものの、近隣の府県に比べるとまだまだ受動喫煙に対する対策が不十分だと言える。

5. 参考文献

繁田 正子 (2009) : PM2.5 値からみた未成年が出入りする場所の受動喫煙発生状況
世界保健機構(2009) : 世界のたばこの流行に関する報告 MPOWER 禁煙環境の実態
日本禁煙学会(2010) : “禁煙学” 改訂 2 版 南山堂